

G.R.E.S. アカデミコス・ド・サウゲイロ 2010 年

G.R.E.S. アカデミコス・ド・サウゲイロ 2010 年

“果てしない物語”

人類が獲得した道具の中で最強のものはどれかといえば、それは間違いなく書籍である。その他の道具は身体機能の拡張補完物であるが、書籍はこれらとは異なり、記憶と創造を拡張補完するものである—ホルヘ・ルイス・ボルヘス(アルゼンチンの作家・詩人)

ある時、ヨハネス・グーテンベルクは自由になることを夢見みました。書籍になりたい。言葉になりたい。歴史の流れを変えたい。歴史になりたい。そして、その行動力と好奇心によって、その夢を実現し始めました。その実現開始の瞬間は 15 世紀のドイツに訪れました。グーテンベルクが最初の作品の最終ページの最後のピリオドとして、鉛片を紙に押し付けた瞬間です。最初の作品とは、すなわち、活版印刷版の聖書です。

「我に 26 のコマを与えよ。されば世界を征服せん！」

言葉と書籍の功績としては、まず、出版(その発明・創生そのもの)が挙げられます。これによって、古文書、漢字本、羊皮紙、その他、一般に知られない中世の修道士による写本が時代遅れなものとなりました。インクに汚れた物体にすぎない活字というものが、グーテンベルクの夢を具現化し、新しい、重要な歴史の 1 章を印刷したのです。世界初の印刷物でさえ永遠に残るのです。

活版印刷によって、従来は世に出ることなく埋もれしまったような新発想や理想に公表の機会が与えられることとなりました。名著、終わることのない物語の時代の扉を開く鍵となるものでした。

手作業、軽工業の時代！印刷されたページが、多くの英雄、伝説、神々の共感と怒りをともなった数々の帝国の勃興を歴史の闇から救い出しました。数々の出来事が、文明の価値・功績を称える叙事詩にまとめられ、不滅のものとなりました。人類の栄光に捧げられた同じ言葉によって、新しい時代の夜明けも、一人の放浪の騎士の姿になぞらえて表現されました。風車は希望の風を伝え、主人公を楽園に向う曲がりくねった道をたどる精神の旅へといざない、その読者を宮廷貴族の陰謀と旧世界の大帝の民衆による革命へと導きました。

王や女王の錯乱、公女、騎士、女官の三角関係などが題材となりました。甲冑に身を包み剣を携えた騎士の時代、美しい貴婦人の名を賭けた決闘の時代でした。やがて皮肉屋の敵役が登場し、ロマンティックな視線の駆け引きが行われるページに移ります。秘密の誓い、盟約、嫌悪、禁じられた恋、疑惑、永遠の愛の誓いといった危険な関係が詳細な文書で表現されました。

それがやがて、新世界の文学にも影響を与え、ポルトガルの公女がインディオとの恋に堕ちるといった構造に置き換えられて出現しました。多民族混成社会であるブラジルの連帯をロマンティックに表現する接続様式が生成されたのです。言葉は詩的イメージの海を渡り、奴隷船の船倉を行き来する劇的な展開をも表現しました。やがてブラジルに到着し、国のルーツを強化する黒人男女の乗船風景。ブラジルの年代記、リオデジャネイロの様々な都会人・郊外居住者、バイーアの男女、肥沃な大地の勇敢な開拓者、、、どの作品にも混血の英雄伝が紡がれて、文学的な夢の世界へといざないます。まるで魔法の言葉で懐かしい本の影に眠らされるように。「チチンパイパイ」「開けゴマ」「アブラカダブラ！」

瞬きする間もなく、我々は「昔々」の「あるところ」に飛んでしまいます。こうして我々は空想の世界への扉をくぐります。ここでは、想像力という加速装置を得て、どの時代の、どの場所にでも行くことができます。擬似的に世界中を歩き、想像上の伝説の痕跡を訪ね、夢の都市、驚きの国、忘れじの物語の世界に出会うのです。見上げれば人形が生を得て、耳をすませば名高い英雄の歌声が聴こえ、感覚を研ぎ澄ませば祖母が語ってくれた物語に感じた純真無垢な幸せの鼓動がよみがえります。心に深く刻まれた、幼いころの匂いや味を運んでくるような、やさしい語感。これが鍵となって、誰の心にも住み着いて離れない子供心と呼び覚まし、大いなる人生疑似体験という冒険へ踏み出す鍵となるのです。しかし、その前にアドバイス。まずは大きく深呼吸することをお奨めします。準備はいいですか？では参りましょう！

ここから、我々の旅が始まります。冒険とサスペンスの世界への旅が。そこには、様々な人や事件との出会いが目まぐるしいテンポで起こり、興味深い謎が解明され、異次元へ向かう道が発見され、その行き先には時間と場所を超えた想像の世界から飛び出したような怪物や魔法使いや超自然的な生物が棲み、独創的な言葉に導かれるまま息つく暇すらなく、ひっかけ、待伏せ、交差する展開、危機、悪者の跋扈、ジグソーパズルの欠片、

“果てしない物語”

G.R.E.S. アカデミコス・ド・サウゲイロ 2010 年

殺気立ったリズムでますます好奇心をそそるような断片的な情報に導かれて、やっとな息の間に、最初から最後まで貫かれた伏線的な謎が明らかとなるのです。最後の最後で、なんと！

大どんでん返し！
大団円！

一件落着！

「こんなことになんて気づかなかったんだろう？」真実はずっと目の前にあったのに。かすれたインクで書かれた未来さえ読むことができる目があるのに。自らが発明した機械に支配権を奪われて、人類は自ら創造したモノの人質となってしまいます。神に代わるがごとき機械の庇護のもとで電子の眼に監視される惑星という、SF小説のページが、今まさに開かれています。宇宙を旅して未来的な場面の混沌から引き出した情報から現実をシミュレートする、高度な人工知能。我々はこの新時代のオデッセイの最終章に差し掛かっているのでしょうか？

未来から振り返れば、今日が新たな 1 章を始めるときだったということになることでしょう。白紙のページに、我々が奨める物語を書いてください。自分史を書き換えて、幸せとバランスと平和の秘訣を告白する一大傑作を作り上げるのです。神秘の書に描かれた本筋・脇道を経て運命的な到達点へといたる知識の道筋を我々に示す、哲学的な教示となるものを。こうすることで、常に新章、新版が加わっていく不朽の名作が生まれることでしょう。果てしの無い題材、再生、拡大を繰り返す、いつも誰かが新しいページを書き加えていく、「果てしない物語」を！

ヘナート・ラージ(+文化部)
2009 年 6 月

G.R.E.S. アカデミコス・ド・サウゲイロ 2010 年

(サンバ・エンヘッド)

作: ゼチ、マウロ・トハオン、イヴァン・サウヴァードール、カルロス・ボボーラ、ジョジマス・パッサ・ヘグア

私は夢みた...無限の物語を
私の記憶を照らすその物語に、私は魅了された
輝いていた...現実と幻想が混ざり合って
いままでには想像すらできなかったように
智の技術に新しい夜明け
神聖な発明、初めての活版印刷
生命の聖典
永遠の美德
読書は刺激する
人々の心を

私はこの魔法の中を旅した
魂と心で
智恵の源泉の中に
私は自分の発想を求めた

ページに記述された思考
定説、理想、感情
ロマンス...冒険
我々の文学の豊かさよ
無邪気な子供話が
記憶に蓄えられていく
謎...サスペンス...感情
読書の習慣、喜んで綴る
一人の視点をはるかに超える
希望のメッセージが
想像力を磨いていく

ある愛の物語
そこにピリオドはない
サンバのアカデミアといえばサルゲイロ
「私のカーニバルの本」の中では